

「グリーンコンシューマー ガイドブック」を作ろう！

世界中で消費者の「環境に配慮した消費行動」を推進する活動が広がっており、目指す姿を「グリーンコンシューマー（緑の消費者）」と呼んでいる。「消費者が環境に配慮した購入時の選択をしたり、消費生活を営んだりする」という行動を推進するものである。他国に遅れてようやく日本でもガイドブックが作成されたり、環境に配慮した商品が増えたりしているが、十分に浸透できていない状況である。消費行動は衣食住全てにかかわることから、生産・流通・消費・3Rについて学習し、今後とるべき環境に配慮した消費行動について、ガイドブック作成を通して理解を深める学習を計画した。

1. はじめに

大量生産と大量消費が生活の豊かさの象徴である現代、大量廃棄や大量のCO₂排出による地球環境の悪化は重大な問題となり、消費者は加害者でもあり同時に、被害者ともなっている。世界的にも、さまざまな環境対策が講じられているが、経済社会を担っている企業や事業者に託されている部分が多い。しかし、消費者がその一端を担っている意識をもつことにより、商品購入時に環境負荷の少ないものや再生可能なものを選択したり、消費方法を改善したり、廃棄時の方策を工夫したりすることができる。さらに、積極的な環境に配慮した消費行動を行うことは、生産者側をも変革することにつながる。

生徒の実態から、「もの」を購入する際に、環境という視点で選ぶ生徒はほとんどおらず、値段・デザイン・機能性・ブランドなどにこだわりをもって選択する生徒が大部分である。また、「もの」を大事に使ったり、管理したりする能力は十分とは言えず、環境に配慮した消費活動にまで至っていない。

新学習指導要領では、環境に配慮した消費生活を衣食住の学習と関連させて取り上げて、実践することが望ましいと記されてある。そもそも消費活動は、衣食住全てにかかわる家庭生活そのものであり、生涯にわたって行われるため、それを支える「もの」の価値観や環境に配慮した消費活動について学習することは意義が大きいと考える。

2. 授業の実際

(1) 目標

- ①消費生活と環境とのかかわりについて関心を持ち、環境に配慮した生活についての学習に意欲をもって取り組むことができる。
- ②自分の生活意識や生活様式を見直し、消費者の立場から環境負荷を少なくするための工夫をする

ことができる。

- ③環境や資源に配慮した消費行動の実践を目指し、グリーンコンシューマーガイドを作成することができる。
- ④消費行動が環境に与える影響と、消費者が実践できる環境に配慮した積極的な消費活動について理解することができる。

(2) 授業の流れと生徒の姿

(☆：目指す生徒の姿，○教師の手だて)

1時間目：各自の消費行動や「もの」の管理について振り返る。

☆日常生活での消費行動や「もの」の管理についてふり返り、問題点を見つけ出し、その原因を探ることができる。

○各自、筆入れの中身を予想させ、「もの」の管理についての現状を把握させる。

○落とし物が多く、落とし主が見つからない本校の現状について話し合いの場面を設ける。

2時間目：衣服の原料や製造工程をまとめる。

☆衣服に使用されている原料や製造工程について調べ、材料の製作過程や衣服の製造工程について理解することができる。

○自分の気に入っている衣服を家から1着持参させ、その衣服の原料や製造工程を書物やVTR、インターネットで調べ、プリントにまとめさせる。

3時間目：衣服の寿命は消費者行動で決まることに気づく。

☆消費者の考え方や行動により、衣服の寿命が左右されることに気づくことができる。

○衣服の購入後から廃棄までをプリントにまとめさせ、無駄がないかや、改善すべき点を見つけさせる。

○衣服の廃棄場面では、リメイク作品を幾つか提示し、さまざまな方法があることに気づかせる。

5時間目：衣服の一生を通して、環境問題を見つめる。

☆衣服の生産・流通にかかるエネルギー量について考え、消費者行動の在り方と環境問題を結びつけて考えることができる。

○衣服が店頭で陳列されるまでの過程で、衣服に使われるエネルギー量を予想させる。さらに、そのエネルギー量を半分にするための方法を班ごとに考えさせる。

○資源やエネルギーを使って作られている衣服を、有効利用するための方法を考えさせる。

○他製品も同様にエネルギーを使用して製造されていることに気づかせる。さらに、消費行動の在り方によって製品の寿命だけでなく、環境への影響を左右することにも気づかせる。

6時間目：環境に配慮した商品選びを考える。

☆生産・流通・使用（消費）・廃棄の場面について、環境への配慮の視点から考えることができる。

○日用品・文具具・食料品の中から1～2種類の商品をさまざまな条件に応じて準備する。

○商品選択の方法を考えるために、生産・流通・使用（消費）・廃棄の場面について、環境への配慮という視点から考えさせたり、調べさせたりする。



7時間目：グリーンコンシューマーになるための条件を考える。

☆「衣服の一生」「商品選び」の学習活動を通してグリーンコンシューマーになるための条件を考えることができる。

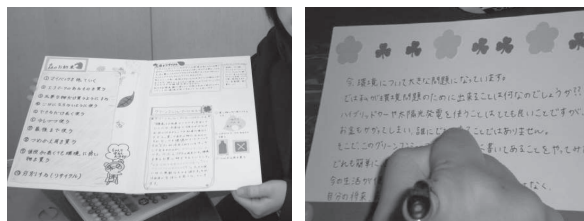
○グリーンコンシューマーの意味や歴史、その取り組みを紹介する。

○条件や理由を自分の言葉で説明できるように、全体での話し合いの前にペア・グループで意見交換の場を設ける。

8～9時間目：グリーンコンシューマーガイドを作成する。

☆自分が実践できるグリーンコンシューマーガイドを作成することができる。

○消費行動の必要性や具体例、科学的な根拠などをわかりやすくまとめ、オリジナルガイドを作成させる。



10時間目：まとめをする。

☆これまでの学習をふり返り、今後の自分が実践すべき消費行動の在り方を考えたり、まとめたりすることができる。

○クラス全員のガイドブックに目を通すことができるように、学級文庫に設置する。

○グリーンコンシューマーとして、今後、日常生活において自分ができていることを考え、プリントにまとめさせる。

○長期休業中の消費行動レポートの計画を立てさせる。

3. おわりに

これまで、環境問題や環境保全の方法については、他の教科でも学習しており、知識としてはもっていたが具体性や現実性に欠けており、大人任せ、他人任せになる傾向が強かった。また、生徒自身が自分にできる環境に配慮した行動が「数少ない」と意識していたこともわかった。身近な「もの」から環境を考え、具現化していく学習を通し、生徒は改めて環境を考え、自分が使用しているあらゆる「もの」が環境に大きく関与していることや、消費者という立場で環境保全のためにできることが、予想以上に多くあることに気づくことができた。

今後、生徒一人ひとりが生活の中で実践し、継続していくことが大切であるが、中学生が日常的に実践できることは少なく、将来にわたって活用していく部分も多い。そのため、今回の家庭科の学習で発信したことを、さまざまな学習活動や学校生活の中で、生徒に自主的に取りまわせることが重要である。さらに、家庭や地域との連携なども視野に入れ、継続的に行っていく必要があると強く感じる。